

## 合田農場× NOPPO の農業研修を終えて

東京農業大学大学院 M1

吉澤 正太朗



一週間泊まり込みという長い期間で農業研修を終えてみて思うことは、合田夫妻とおじいさん、NOPPO の福本さんのおかげで、素直に楽しいと思える農業研修を経験することができたということでした。

農業研修に参加したきっかけは、私が農業を知識の面で学んでいながら、実際にその知識を現場への仮説として持って行く機会がなく、知識だけで農業をとらえていると感じていたからです。そこで、実際に現場へ赴き、農作業がどのようなものなのかということ、実体験を通して理解したいという思いから、色々な面で合田さんや NOPPO さんに手助けして頂きながらも、農業研修生として農作業を体験する機会を頂きました。

その農業研修を通して感じたことは、「農業は本当に大変な仕事だ。」ということでした。その苗作りという農作業の過程はある程度オートメーション化されており、次々とできる苗床を運んでは、パレットに並べ、その後、ハウスへと運び苗床を敷くというという一連の作業でしたが、最後はやはり人の手であり、その出来上がった苗床を並べたり、ハウスの地面へ敷いたりする作業は、一枚一枚手作業でかつ、丁寧に敷かなくてはならず、その作業はとても大変なものでした。実際、研修二日目が終わった夜は、背筋が筋肉痛になるとともに、体中が気だるくなってしまい、疲労困憊の夜でした。そのため、私たちが研修に来る前までは、合田夫妻とおじいさんの三人でその作業を行っていたということを聞いた時は、ただただ驚くばかりでした。

また正直な話、私の場合は学生であり、その結果に対する責任がない中で農作業を行うことと、合田さんのように、農作業の結果が最終的な収益に繋がり、生活を支えているという責任がある中での行う作業を考えると、やはり精神的な疲労も相当違うのではないかと思います。それにも関わらず、合田夫妻とおじいさんは、その責任を認識した上で、私たちの作業に対して寛容にかつ、的確に指示、指導をしてくれました。

加えて、私たちの研修を有意義なものにしようという合田さんの心づかいで、最終日には秋田県と岩手県の物産センターへ商品開発の一環として行き、その地域の特産品に関する様々な知識を得ることができました。

このように、私たちを歓迎して頂くとともに、一人の研修生として認めていただき、様々な経験をさせて頂けたことには、本当に感謝するばかりです。

私にとって今回の農業研修は、そのほとんどが初めてのことばかりであり、毎日が新しい発見をしているようなものでした。特に、お米作の中で重要な位置にある播種作業を手伝ったことは、私にとってとても良い経験になるとともに、農作業というものがどういうものなのか、また、その農作業を通して作られるお米には、どれほどの想いが込められているのかということ、感じさせてくれるとても良いきっかけとなり、本当にありがたく感じました。

最後に、今回の農業研修を素直に楽しめたのも、合田夫妻とおじいさんの温かいご指導や心づかいに加え、NOPPOの福本さんの安全運転に関する厳しいご指導のおかげで(笑)、有意義かつ充実した農業研修を終えることができました。ありがとうございました。

今後の計画として、夏には農産物販売の講習、秋には東京農業大学の収穫祭での販売と、まだまだやることはありますが、また一緒にそれらのこと楽しめたらと思います。まだまだ足りないところはありますが、今後ともよろしくお願いします。